



九条の樹

97号
2022年10月発行



発行：東久留米「九条の会」 連絡先：TEL 042-473-9489 (鈴木)

http://higashikurume-9.net/ メール：higashikurume9j@gmail.com

そっくり！ 統一教会と自民党の 憲法改正案

旧統一教会の政治団体「国際勝共連合」ホームページで「憲法改正」のユーチューブ動画を見ました。いろいろ解説の後、勝共連合の憲法改正案として①緊急事態条項の新設②家族保護の文言追加③自衛隊の明記をあげています。

このうち①と③は、安倍元首相が提案した自民党の憲法改正4項目うちの2項目とおなじものです。また「家族保護」は「自民党憲法改正案」の前文や改正項目でも取り上げられています。安倍元首相は選挙での「統一教会票」の差配をしていたと言われる中心的存在でした。安倍氏

と統一教会の関係はもつと掘り下げられる必要があります。

また統一教会が中央、地方の政党、行政などに浸透していることも問題となっています。

北海道大学大学院教授の櫻井義秀さんは「この団体の特徴は、政治宗教なのです。…統一教会の目的は自民党政治家とのパイプを使いながら、自分たちの活動に対して便宜を与えてもらう…それにとどまらず、自分たちの活動理念を日本の政治の中に実現しようとしている」「関連団体の勝共連合などを使って、反共という価値観を広め、スパイ防止法制定や改憲などの運動を

やってきました。また「家庭教育」を強調する保守的な家族観や夫婦同姓を主張し、選択的夫婦別姓に反対している」と指適しています。

地方議会では統一教会は「家庭教育支援条例」の制定運動を10年以上前からおこなっていて現在10県6市で制定、「国際勝共連合」幹部が地方議員研修会を各地で開催し「親が子どもに生活習慣、自立心を教えれば虐待、いじめはなくなる」と、責任を家庭に押し付けています。

大阪府では維新の会が主導して条例制定しようとしたが「発達障害は親の愛情不足」との条例案に批判が集中、白紙撤回となりました。

統一教会の正体を隠しての勧誘、霊感商法、高額献金など反社会的な活動にきびしい批判が集中し解散を求める声が起きています。自民党などの長い癒着を明らかにし、完全に断ち切るべきものです。(事務局 鈴木)

憲法9条は無力か？

— 布施祐仁さん（ジャーナリスト）講演から —

（5月22日・戦争はイヤ！声をあげよう実行委員会主催）

（前号96号のつづきです。）



敵基地攻撃能力とは

これはすでに進行しています。アメリカも日本を拠点とした配備を計画して、すでにロッキードマーチン社が超高速ミサイルの開発を行っています。

アメリカ国防省関係者の発言です。「軍事作戦上の観点から言えば、北海道から東北、九州、南西諸島まで日本全国の

あらゆる地点にミサイルを配備したいのが本音。中距離ミサイルを分散配置すれば中国は狙い撃ちしにくくなる」（朝日）。またコルビー元アメリカ国防副次官補は「日本に地上配備型ミサイルが必要だ。中国の攻撃により滑走路などが破壊され機能しなくなる恐れがある。ミサイルを配備すれば中国は標的にしなければならぬ対象が増え中国の攻撃に対する耐久性が増す」（共同通信）。これが本音です。

アメリカが中国と戦争する場合、どういう作戦を考えているかという点、いざ戦争となったら戦闘機部隊とか、横須賀の海軍艦船など高額の主力部隊はいったん日本を引き上げ

る。日本にいたら中国の射程に入ってしまう。それらを失うわけにはいかない。日本にミサイル部隊だけ残す。そして日本中動き回って中国を攻撃する。主力部隊は後方から長距離ミサイルなどを打って攻撃する。米軍はいったん日本から避難するわけです。それがアメリカの作戦です。日本国民はどうするか。逃げ場所がないですね。ウクライナみたいに地続きで隣国へ逃げることができない。そこへミサイルが飛んでくる。

核兵器の共有

今「核共有」という議論があります。ウクライナの危機で急に安倍さんが言い出したことではありません。

元国家安全保障局長の兼原信克という人が「私はアメリカが中距離核ミサイルを日本に持ち込むのであれば当然共同管理が必要だ」と言っています。

アメリカが日本に中距離ミサイルを配備しようとしていると先ほど言いましたが、これは核弾頭もつけられません。アメリカが日本に核弾頭を配備していざ有事の時、核ミサイルを中国に打ったらどうなるか、当然中国も日本に向かって核ミサイルで反撃してくる。

キューバ危機

核兵器使用の直前まで行ったことが2回あります。1962年のキューバ危機です。

アメリカの目と鼻の先のキューバに、ソ連の中距離核ミサイルが配備された。アメリカは絶対許さないと行ってキューバを海上封鎖し、キューバからのミサイル撤去を要求した。キューバ上空を偵察していた米軍機がソ連製の対空砲で撃墜されて緊張が高まりました。軍幹部は報復のためキューバを爆撃しようとケネディ大統領に言うのですが、

全面戦争になるからと、爆撃はとどまりました。

交渉の結果アメリカはキューバに攻めない、アメリカがトルコに配備していた核ミサイルを撤去、ソ連もキューバから核ミサイル撤去した。この時米軍の警告爆雷に対しソ連の潜水艦は核魚雷を発射しようとしていたが、司令官がストップをかけたというところがだいぶ後でわかりました。また、米軍の沖縄の核ミサイル部隊にも誤って発射命令が下っていたことが後でわかりました。読谷村の基地の部隊が何かおかしいと気づいて発射されなかった。核兵器がある限り誤って発射される危険がいつもあるということです。

中国の台湾侵攻はあるのか

日本の中距離ミサイル配備は台湾有事に備えるためと言われます。ロシアのウクライナ侵攻後、中国も危ない、現状変更してくるのではないか

と心配する方も多いと思います。不安をおおって軍備強化を進めようという動きもあります。

冷静に見る必要があります。中国が脅威ではないと言うつもりはありません。結論から言うと、ここ数年以内に中国が台湾を攻めることはないと思っています。アメリカ軍のトップも議会で、近い将来中国が台湾に武力侵攻する能力も動機もないと明言しています。ナイという人が昨年読売新聞への寄稿で「米中は経済依存関係が大きく戦争になる危険は少ない。ただ計算違いで破滅に向かう危険はある」と指摘しています。お互い大規模な軍事演習をやっていると偶発的や相手の意思の読み違いで戦争がおこる可能性がある、と言っています。

抑止力を高めて安全を守るうと、中距離ミサイルを日本中に配備しても緊張は高まるばかりで戦争のリスクは高ま

ります。万が一戦争になったときアメリカは日本に配備したミサイルを中国に打ち、中国も日本の基地などにミサイルを打ってくる。最悪は核ミサイルになる危険です。日本にしてみれば戦争になったとたんに負けです。

ASEANと憲法9条

今一番大事なのは戦争を起こさせない外交だと思えます。

「きれいだ。ロシアや中国に外交なんて通用しない」という人もあります。ここは冷静に考える必要があります。ASEAN（東南アジア諸国連合1967年創設）は当初反共同盟的性格のものでしたが、ベトナム戦争でフィリピンや韓国が参戦し犠牲を出したなどにより変わっていきま

した。アジアの国々が大国の戦争に巻き込まれないことを目的に掲げて努力を重ねてきました。アジアの国々が話し合いを重ね信頼関係を築いてき

ました。当初敵国であったベトナムやラオスなども加盟して、アジアでの戦争を防いできています。

中国はベトナムと衝突したり、南シナ海の島しょの領有権を主張して緊張を高めました。ASEANは外相会議に中国を招待し「対話国」と認定して話し合いによる努力をしています。中国はその後もフィリピンのスカボロー礁の領有権を主張して実効支配し、フィリピンは仲裁裁判所に提訴しました。そこへ米軍が接近して航行したためフィリピンの外相は米軍の行動を非難して「武力衝突の危険性を高めている。米軍との同盟関係見直し」を表明しました。国際法と外交で中国と対峙しているのです。

ASEANの対話の姿勢は、紛争の武力による解決を禁じて外交による解決を求める日本国憲法9条の精神と同じものです。

(文責 事務局)

◇映画「わが青春つぎるとも」上映会に300名が鑑賞◇

感想

9月10日(土) 11日(日)の両日、戦争はいや!声を上げよう実行委員会と東久留米「九条の会」主催で、成美教育文化会館と西部地域センター2ヶ所で上映会を開催。およそ300名の方が鑑賞されました。

伊藤千代子は、今から100年あまり前に諏訪に生まれ、(現)諏訪二葉高校を卒業しました。生活に苦しむ人々に心を寄せ、治安維持法下に平和と働く者、男女平等等反戦平和の活動に青春を捧げました。特攻警察の弾圧・拷問、獄中の困難、夫の変節に耐えながらなお戦いの炎を燃やし続けて24歳で生涯を閉じました。感想が多数寄せられましたので、一部ご紹介いたします。

涙が止まりませんでした。

特に治安維持法で検挙されてからの出来事、肉親たちとの最後の4通の手紙、千代子の対応に、戦時中の戦地の父と母との手紙の交流などを思い出し、胸を突かれました。今まで千代子の最終の地が東京府立松沢病院であったことは知っておらず驚きでした。

実は私の母の次兄もこの松沢病院で生命が絶えたのです。私の父が二度目の招集をされたのが昭和16年7月。秘やかに入営するようにとの特異な招集で、10月になっても行き先が判りませんでした。心配で麻布に住んでいた伯父は、

青山連隊司令部の知人に「行き先がわからない、おかし」と問い合わせました。丁度ハワイ真珠湾攻撃の始まる

数か月前のことです。その直

後から伯父宅は憲兵に検閲され、見張られ続きました。半年後に伯父は精神が狂い、松沢病院に隔離されました。母は、この伯父が可愛がついてた当時4歳の私を連れて松沢病院に面会に行きました。その時の記憶が残っている私は、千代子が入った病棟の様子を、

その時に重ねて観ていました。伯父も半年後に死亡しています。2015年に他界した夫とは、諏訪湖のほとりにある製糸工場跡地や千代子の顕彰碑のある丘など、周辺を色々と尋ねていました。歴史の中の庶民の人生と、政治をしつかり見つめて、未来を展望する千代子の生涯を吾が人生にどう生かすかが課題です。

まず、このような近いところで、日頃から見たいと思っていた映画を鑑賞できたことは、関係者の方々に感謝しなければと思います。

山本圭の多喜二の映画の息詰まるような場面も思い出しました。本当は特高警察によつて強姦も行われていたがそこまでは描けなかったかと思う。24歳で命を奪われ、さぞ生きたかつたらうと思うと悲しい限りです。「不屈」と刻んだコンパクトの実物を見たことがある。多くの若者には非観て欲しい。戦争の足音が聞こえてきた昨今、観て欲しい。

※ 市外の方より切手代のカンパがありました。ありがとうございました。